

第2回こうち動物愛護センター（仮称）基本構想検討委員会

意見、提案等

1 基本構想に関すること

- ・動物を通じ、やさしい心を育むことが社会全体にも影響していく。動物を飼っていない人や関わりがない人にも動物との共生を理解してもらえるセンターにすべき。
- ・また、人にとってのペットや動物のありがたさを広げる、という視点も入れてはどうか。
- ・高齢者施設の方も含め高齢者の方々にも訪れてもらえる施設にするべき。
- ・動物とのふれあいについては、動物のストレスになることもあるので、動物の福祉に配慮してふれあうようにすべき。
- ・災害時の動物救護について、救護というと野犬を含め全ての動物を助けると誤解される恐れがある。現在、国で「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」の改定が検討されており、そこでは飼い主による「自助」が基本とされている。改定されるガイドラインを反映させるとよいのではないか。愛護センターは頑張っている飼い主を応援するという形が望ましいと思う。
- ・学校が遠足等課外活動の場所に動物愛護センターを選定する際は、昼食を食べる場所があるかどうか重要である。

2 取組に関すること

- ・収容頭数や殺処分数が大幅に減っている。今後も、譲渡動物の不妊去勢や雌猫の不妊手術支援頭数の拡充など取組を進めることはよいと思う。
- ・当県ではホームページの内容を充実させ、県庁で最もアクセス数が多い。譲渡にもつながっていくため、ホームページの中身を充実させていくべき。
- ・動物愛護センターの業務につながるよう、今から猫の不妊手術支援やミルクボランティアなどの事業を進めているのでよいと思う。
- ・現在の小動物管理センターの業務委託について、体制や連携の強化を進めていくとのことだが、業務については、動物福祉を視野に入れて対応していくべき。
- ・動物を飼っていない人にも理解を進めていってもらうために、「ペット、動物っていいな」と思ってもらうことが必要。
- ・犬を好きになってもらうために、事業者やボランティアの協力を得て、トリミングなどにより清潔に、また見た目もキレイにした犬と子どもたちがふれあえるとよい。
- ・動物愛護の普及啓発について、教師向けの教室も必要ではないか。
- ・動物愛護センターから学校へ出向いて、ふれあいの場を提供することを進めてはどうか。出向く際は、動物をシャンプー、トリミングし、獣医師の検診を受け、公衆衛生上問題のないようにすると良い。また、犬も車酔いや下痢などするので、複数の犬と動物福祉にも配慮できる訪問用の車を準備する方がよい。

- 学校では道徳や総合的な学習の時間などがある。そこで活用してもらえるよう、動物愛護教室や動物愛護に関する教材をセンターから学校側へ提案してはどうか。
- 動物愛護センター完成後、殺処分を減らしていくことから、保健所に一時抑留される犬が増える。また、既存施設の改善要望がでてくることが予想されるので、対応を考えておく必要がある。
- 収容頭数が増えていく中、環境省のガイドラインに基づき、攻撃性が高い、重篤な病気などからやむを得ず処分することはある。処分せざるを得なかった動物には飼い主がいたはずで、飼い主への適正飼養の啓発を行っていかなければならない。
- 動物愛護センターに、しつけやグルーミングなどができる職員がいればよい。